

平成二十五年第三回人吉市議会定例会の初めに当たりまして、市政に対する所信を申し述べる機会を与えていただき、誠にありがとうございます。

先の全国市議会議長会において表彰されました永山芳宏議長、森口勝之副議長、三倉美千子議員、仲村勝治議員、田中哲議員、笹山欣悟議員におかれましては、誠にめでたく心からお祝いを申し上げます。今後もお一層、市政発展のためにご尽力賜りますようお願い申し上げます。

国政におきましては、昨年末に発足した第二次安倍内閣において、金融政策、財政政策、そして成長戦略を「三本の矢」と称する経済政策が進められている中、金融政策として、去る四月四日、日本銀行において量的、質的金融緩和の導入が決定され、財政政策については、五月十五日の平成二十五年予算成立により、平成二十四年度補正予算と合わせた十五箇月予算の編成がされたところでございます。三本の矢の残りの一本である、民間投資を喚起する成長戦略については、現在、内閣総理大臣を議長とする産業競争力会議で議論が行われているところで、今月中にそれぞれの政策テーマごとに具体案が示される予定となっております。本市の地域経済におきましても、経済再生のための成長戦略は重要な課題であり、この度、成長戦略室を設置することといたしました。今後、国の成長戦略の動向を注視し調査研究を行うとともに、迅速に対応できるよう政策企画立案を行ってまいりたいと存じます。

庁舎移転建設関係でございますが、本年二月に開催されました「市庁舎建設に関する特別委員会」において、執行部としての移転建設場所選定案を求められたことを受け、副市長を委員長とする「市庁舎移転建設研究委員会」を開催し、移転建設場所の選定について協議を行ってまいりました。選定に当たっては、「九日町周辺の中心市街地一面」と「市役所別館地一帯」の二つの移転候補地について、防災、安全面、敷地周辺の状況や法的条件面、さらには建設コスト面など様々な角度から移転する場合のメリット、デメリットを総合的な見地で比較し、今回、執行部として一定の根拠を明らかにした選定具体案を提示するに至ったところでございます。

安全、安心な災害対策拠点であり、かつ、市民の利便性を最大限に考慮した市庁舎を一刻も早く建設するためにも、移転建設場所の選定については、今後も議会と執行部が一丸となって、移転建設に向けての課題を一つずつ解決すべく議論を重ねてまいりたいと存じます。議員各位、さらには市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

スマートインターチェンジ整備促進関係でございますが、現在、人吉球磨の十市町村で構成しております人吉・球磨スマートインターチェンジ整備促進協議会におきまして、いくつかのパターンを示した基本構想策定の業務委託を発注しているところでございます。今月中にその成果品が納入される予定でございます。来月から協議会で内容の精査を進めてまいります。

事業推進に当たりましては、国土交通省を始め熊本県、西日本高速道路株式会社といった関係機関との協議及び連携が重要になってまいりますことから、推進体制を充実するた

め、協議会構成市町村の負担によりまして、七月から本市に整備促進のための準備室を設置する計画でございます。今後、事業の進捗に合わせまして、議会を始め地域住民の皆様方への周知、説明などを行ってまいりる所存でございますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

防災関係でございますが、去る五月二十四日に、人吉市防災会議、人吉市水防協議会及び人吉市災害対策本部会議を開催し、梅雨入りを前に各関係機関と情報の共有化や連携の強化を図ったところでございます。

昨年度から整備を進めてまいりました同報系の防災行政無線につきましては、本年三月に整備が完了し、去る四月一日から、市内六十五箇所を設置した屋外スピーカーを通じてデジタル無線放送を開始いたしました。本年度は、消防団積載車などに搭載する車載型無線機や相互通信に使用する携帯型無線機といった、災害現場に必要な移動系無線を整備してまいりたいと存じます。また、屋外での放送が聞こえにくい地区につきましては、同報系の屋外スピーカーの追加設置を検討してまいります。災害への対応として初動体制を確立するためには、確実な情報をいち早く市民の皆様にお伝えしていくことが行政の重要な使命と認識をいたしておりますので、今後とも、防災行政無線を活用した情報伝達網の整備に努めてまいりる所存でございます。

廃屋対策でございますが、本年一月から熊本県下では初めてとなる人吉市廃屋対策条例を施行し、これまで本市に存在する廃屋の実態調査や、市民の皆様から情報提供のあった危険廃屋について確認作業を行ってまいりました。現在のところ、この条例に基づき指導や勧告に至ったケースはございませんが、実態調査の過程で所有者が自主的に解体撤去された廃屋も複数確認されており、廃屋の適正管理さらには防災防犯の意味においても、条例制定の効果が現れてきているものと存じます。今後も、緊急性の高い廃屋につきまして、関係各課と連携を図り危険度調査を進めてまいりる所存でございます。

消防関係でございますが、来る八月四日に第三回熊本県女性消防操法大会が菊池市で開催されます。本市女性消防隊は、第一回大会は三位、一昨年の第二回大会は準優勝と県内でもトップレベルに達した操法技術を有しているところでございます。今回は、さらに技術に磨きをかけるべく、人吉下球磨消防組合のご指導の下、優勝を目指して四月から訓練を開始しております。昼間の仕事に加え夜間の訓練と、隊員個々の努力、そして団結力に対し、深甚なる敬意を表するとともに、この大会を通じて、消防団員の士気の高揚と技術の向上、そして人吉市消防団の強固な結束が図られるものと確信しているところでございます。

市民相談関係でございますが、平成二十一年八月に人吉市消費生活センターを市民課に開設し、市民の皆様様の様々な消費生活相談を受けるとともに、消費者被害の未然防止のために、啓発活動を行っているところでございます。しかしながら、いまだに高齢者を中心とした消費者トラブルが全国的に見受けられ、本市でも潜在的な事案があるのではないかと心配いたすところでございます。この度、更なる消費者の安全確保のため行政相談委員の協力の下、七月から校区単位で「暮らしのなんでも相談」を開催することといたしてお

ります。また、老人クラブや学校などにおいて出前講座を行い、消費者被害の未然防止に努めてまいりる所存でございます。

人吉市地域包括支援センターでは、去る四月一日から、「元気・長生きセンター」の愛称の下、高齢者の日常生活に係る問題について、二十四時間体制でご相談いただける総合窓口として事業を実施しているところでございます。高齢者本人やその家族が抱える悩みや心配事は多岐にわたり、そのまま放置しておく健康を損なうばかりか、生活が崩壊する危険性がございます。本センターでは、専門知識を持った職員が相談に応じ、関係機関と連携することで、問題解決に向けた支援が継続的に提供されるよう包括的な対応を進めてまいります。また、権利擁護事業、介護予防ケアマネジメント事業などにも取り組んでおりますので、高齢者及び家族の皆様には、生活に関わる悩み事など、どのようなことでもお気軽にご相談いただきたいと存じます。

子育てに係る情報発信でございますが、去る三月十三日、保健センターの公式フェイスブックページとして、「ひとよし子育てfb（エフ・ビー）」を開設いたしました。このフェイスブックページでは、子育てに係る、休日在宅医、予防接種及び食育などの情報、保健センターを始め各関係機関のイベント情報、流行、感染など緊急にお知らせを必要とする情報を、子育て世代の保護者に対して発信するものでございます。今後は、子どもたちが健やかに成長するために必要な情報を積極的に発信するとともに、保健センターが身近な子育て相談機関としてご相談いただけるよう努めてまいりたいと存じます。

親子の絆づくりについてでございますが、本年五月に、第一子を出産された母親を対象とした「新米ママと赤ちゃんの『はなひらく子育て塾』」を開催したところでございます。この事業は、初めて子育てを行う母親に対し、仲間づくり、子どもとの関わり、そして育児の基礎知識の学習など四回の講座を通じて、親子の絆を深め、子どもの心に安定した根を育み、「思春期から花開く子育て」を目標として実施するものでございます。参加者からは、自分の子育てへの自信、子どもと向き合うことの大切さを感じ、子育てに当たっての心の余裕を持つことができたとの評価をいただいたところですが、今後は、乳幼児健診同様、第一子の母親全てに受講していただく事業として、隔月に実施してまいりたいと存じます。

市民の健康づくりについてでございますが、この度、「人吉市笑顔と健康のまちづくり協定」制度を創設することといたしました。これは、市民の皆様が、「自らの健康は自らで守る」という意識を高め、健診による健康状態の把握、運動や食生活改善による生活習慣病の予防に取り組み、人生を楽しく笑顔で過ごせるまちづくりを進めるために、その趣旨にご賛同いただける団体、企業などと協定を締結するものでございます。これにより、団体、企業の皆様には、従業員の方々への健診受診の勧奨、健康づくりについての啓発活動への協力をお願いし、本市としましては、健康づくり講座への講師の派遣、健康づくりについての情報提供を行うこととしております。多くの団体、企業の皆様にご参加いただき、市民と行政が一体となった健康づくりを進めてまいりたいと存じます。

農業、商業、観光に係る情報発信でございますが、第五次人吉市総合計画に掲げております「農業と観光で稼ぐ・儲かる経済都市ひとよし」実現のための施策といたしまして、

去る四月二十二日、経済部でフェイスブックページ「人吉市役所経済部（人吉の農・商・観光の多彩な情報などトキドキ発信）」を開設したところがございます。今後は、本市の農業、商業、観光の多彩な情報など人吉の魅力を積極的に発信し、多くの方々に本市にお越しいただくことで経済の活性化につなげてまいりたいと存じます。

労働雇用関係でございますが、去る五月十日、若者の就職支援の場としてNPO法人くまもと学習支援ネットワークの運営による「ひとよし・くま若者サポートステーション」が、中青井町に開設されました。本事業は、厚生労働省の認可を受け実施されるもので、若者の就職支援事業、学び直し支援のほか、就職に不安を抱える若者、不登校、引きこもりの若者やその保護者を対象とし、事務所での面談や戸別訪問などによる相談を無料で行うものがございます。当ステーションは、「サポステ」の愛称で呼ばれており、全国で百四十九箇所が開設され、熊本県下では四箇所が活動中でございます。今後は、このサポートステーションを拠点として、若者が抱えるそれぞれの問題に沿った支援体制が構築され、若者の就労促進に寄与するものと期待しているところでございます。

観光関係でございますが、去る四月二十七日、人吉温泉観光協会主催によるSL人吉運行五周年を祝う記念行事が、JR人吉駅において行われました。駅前広場では、SLの写真や鉄道に関する道具、機関士服などが展示され、子どもたちが機関士服を試着するイベントや、SL人吉の到着に合わせた甲冑武者や関係者によるお出迎えや写真撮影などのおもてなしが行われたところがございます。SL人吉は、昨年までの四年間で延べ十四万人以上が乗車した、JR九州の中でも最大の人気列車であり、今後も、本市観光の牽引役として盛り立ててまいりたいと存じます。

去る五月三日、四日に開催いたしました日本百名城人吉お城まつりでございますが、ゴールデンウィークの最中であって、五月晴れの下、昨年を上回る多くの観光客、市民の皆様にご来場いただき大変な盛況でございました。武者行列の入城といった時代絵巻をストーリーとしたオープニングから、夜の城下町パレード、二日目の六調子大会まで、様々な催しに各種団体や多くの皆様にご参加、ご来場いただき、老若男女を問わず市民総出で盛り上げていただきましたことに心から感謝を申し上げます。

イベントには、多くの子どもたちの参加もあり、鉦叩き少年隊を始め国の重要無形民俗文化財の球磨神楽を優雅に舞う子ども神楽、昨年に続き球磨商業高校生の提案、参画によるスタンプ・クイズラリーイベント、人吉高校と球磨工業高校の弓道部による流鏑舟など、まつりを通じて地域に触れ合い、郷土愛を育む機会を得ることができたものと存じているところでございます。今後も、本市の将来都市像である、自然と相良文化が輝く美しき千年都市にふさわしい、伝統と時代のニーズが調和したまつりを目指してまいりたいと存じます。

お城まつりに合わせて開催いたしました「おどんな日本一」武道大会でございますが、「第六回おどんな日本一全国少年剣道大会」は、昨年に引き続き、相良神社北側の御館跡において開催し、九州、山口各県から四百三十八人の小、中学生の皆さんの参加があり、個人戦、団体戦ともに白熱した野試合を繰り広げていただきました。

また、これに先立ち、四月二十八日に人吉市弓道場で開催いたしました「第五回高校生弓道大会」には、県内外から昨年より百十八人多い四百三十人の参加があり、レベルの高い団体戦と個人戦が行われました。

人吉市相撲場では、「第五回人吉・球磨相撲大会」を開催し、球磨郡市から四十人の小学生が参加し団体戦、個人戦が行われ、「豆力士たちの取組に大きな声援や歓声が上がっております。

また、五日には、こどもの日に合わせた石野公園こどもまつりを開催いたしました。こちらも晴天に恵まれ、市内外からの多くのお客様にお越しいただきました。特に、陶芸こいのぼり作り、キャンドル作りなどの工芸体験、ゲームや昔遊びなどを通して、公園全体が子どもたちの元気で明るい歓声に包まれた新緑の一日となりました。

土木関係でございますが、本市が管理する橋りょうにつきましては、平成二十二年度に作成した「人吉市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、改修を進めているところでございます。本年度におきましては、市道上林中神線に架かる下原田町の中原跨線橋の一部に損傷及び劣化が確認されておりますので、上部工架替工事を実施してまいりたいと存じます。施工は、九州旅客鉄道株式会社へ工事の委託を行うこととし、現在、受託協定の締結に向けて協議を進めているところでございます。市道願成寺錦線に架かる曙橋につきましては、調査、詳細設計を行い、橋梁修繕工事を計画してまいりたいと存じます。

社会資本整備総合交付金事業につきましては、国の補正予算により事業計画を前倒しすることとし、路面の傷みが過度に進んでいる下林南願成寺線などについて、補修工事を実施することといたしております。

都市計画関係でございますが、公園事業につきましては、「人吉市都市公園施設長寿命化計画」に基づき、整備を行っているところでございます。本年度は、防災安全交付金事業を活用し、村山公園内の東屋、便益施設及びテニスコート周辺の園路の改修を進めてまいりたいと存じます。石野公園におきましては、老朽化した遊具施設を撤去し、新たに複合遊具を設置することで、公園施設の安全性の確保と充実に努めてまいりたいと存じます。

これまで検討を進めてまいりました「人吉市教育振興基本計画」でございますが、本年三月に計画を策定いたしました。この計画は、教育基本法に基づき、国や熊本県の教育振興基本計画を参考に、地域の実情に応じた教育の振興を図るために策定するもので、計画の期間は、平成二十五年度から平成二十八年度までの四年間といたしております。本計画では、教育に関するそれぞれの課題を解決するために取り組むべき方向性を示し、将来の新たな展望につなげていくことを目的としているところでございます。本計画を通しまして、市民一人一人が学ぶ意欲を養うことで、将来の夢や希望に向かって自らの可能性を高め、人間力、人として生きる力を育み、心身ともに健康で豊かな人生を送ることができるとしてまいります。

学校教育関係でございますが、去る三月二十四日、本市出身で花まる学習会代表の高濱正伸氏をお招きし、人吉市立第一中学校体育館を会場に講演会を開催しましたところ、年

度末の大変お忙しい中にも関わらず、学校関係者、保護者を始め多くの方々にご参加いただきました。この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。高濱先生の講演は、「飯を食っていける人を育てるために」という極めて分かりやすい内容で、研究者であり、かつ、実践者としての教育論を熱心にご講義いただきました。今後の事業としましては、今月六日から人吉東小学校において、小学二年生の希望者を対象とし、放課後の一時間を活用して「人吉市花まる教室」を実施することとしており、放課後パワーアップ教室、夏休みパワーアップ教室と合わせ、子どもたちの学力向上に努めてまいりたいと存じます。

社会教育関係でございますが、東日本大震災の被災地で福島原発事故の影響により自由に外で遊ぶことができず、心に不安を抱えながらもひたむきに未来へ歩んでいる子どもたちに対して、「復興支援子どもキャンプ」事業を、市民ボランティアの皆さんとともに計画しているところでございます。この事業は、夏休みの時期に、福島県南相馬市及び郡山市の小学校五、六年生の三十人の子どもたちをこの人吉球磨の地に招待し、本市の豊かな自然の中で伸び伸びと過ごしていただくとともに、本市の子どもたちも被災地の子どもたちとの交流を通して、人としての絆を育むことを目的として実施するものでございます。今後も、被災地の皆様に心を寄せながら、復興支援を続け、絆を深めてまいりたいと存じますので、事業実施に当たりまして、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。次第でございます。

文化財関係でございますが、去る五月二十五日に日本を代表する作庭家、野村勘治氏を講師にお迎えし、井口八幡神社境内の庭園を題材にしたお庭御覧を開催いたしました。今回は、井ノ口町と合ノ原町の皆様方に臨地講習を体験していただきましたが、植栽の手入れや石組の清掃を行うことで、身近な庭園が輝きを取り戻していくところを目の当たりにするとともに、地域の名勝を再確認することができました。また、翌日は、人吉城御館跡庭園を始め市内十箇所の名園を野村先生の解説で訪ねる庭園めぐりを実施しましたところ、多くの庭園愛好者に参加いただき、歴史性豊かで奥深い人吉の庭園文化を満喫いただいたところでございます。今後も、「人吉の宝物を探し出す」というコンセプトの下、お庭御覧の充実に努めてまいりたいと存じます。

史跡大村横穴群西側の民家背後の崖面の保存修理につきましては、昨年度実施設計を行ったところでございます。本年度は、崖面の岩盤の形状を変えず岩盤安定化を図る工法としまして、アンカーピンやロックネットによる岩盤強化工事を実施してまいりたいと存じます。また、昨年七月の集中豪雨により発生した史跡大村横穴群の斜面落石につきましまして、災害復旧工事として岩石固定を実施することといたしております。

文化振興関係でございますが、本年度で十七回目を迎える球磨川舟唄全国大会につきまして、昨年からの今後の事業実施方法を検討してまいりましたが、この度、新しい形の民謡大会として開催することといたしました。大会は、来る九月七日、八日の両日に「球磨の民謡全国選手権大会」を総称として、一日目に人吉球磨に残る民謡を披露していただく「第一回球磨民謡全国選手権大会」を、二日目に「第十七回球磨川舟唄全国大会」を開催することといたしております。また、特別審査員には、福島県双葉郡浪江町出身の民謡歌手原

田直之氏に出演を依頼しているところであり、合わせて福島復興応援チャリティーとしての開催を計画しているところでございます。積み上げられてきた大会の歴史を引き継ぐとともに、新しい事業を加え、これまで以上に素晴らしい大会となりますよう努めてまいり所存でございます。